

石川素童禅師の授戒会

著者	菅原 研州
雑誌名	鶴見大学仏教文化研究所紀要
号	25
ページ	19-37
発行年	2020-03
URL	http://id.nii.ac.jp/1646/00000857/



石川素童禅師の授戒会

愛知学院大学教養部准教授 菅原 研州

只今ご紹介いただきました、愛知学院大学の菅原でございます。本日は「石川素童禅師の授戒会」と題しましてお話しいたします。以前、御本山より御縁を頂戴いたしまして、『跳龍』に「石川素童禅師の「勸戒」という連載を持たせていただき、石川禅師の授戒に関する著作や提唱を読み解きながら、どのようなお話をしておられたのかを発表させていただきました。今回はその時に用いました資料を改めてまとめ直しながら、その後に分かったことや気付いた点を加えてお話ししたいと思います。

まずは、石川禅師の御修学から申し上げます。石川禅師は現在の名古屋市中大曾根のご出身ですが、ご誕生をめぐるご因縁の一つに大曾根近くにある臨済宗長母寺との関わりがあります。こちらは、鎌倉時代に多くの仏教説話を残した大圓国師・無住道暁が中興したお寺ですが、石川禅師のお父様は篤く仏教に帰依をしておられて、無住国師の御真前でもう一人男の子が生まれたら、仏門に入りたいと願いました。その関係もございまして、石川禅師の御提唱・御垂示には無住国師を意識した様々な説話を入れられる傾向があるように見受けられます。更には、御自身の禅師号である大圓玄致禅師にも、無住国師との因縁を感じておられたようです。

それから、九歳の時に現在の名古屋市中大区内の関貞寺というお寺で鼎三即一老師から受戒されました。この時は、

お父様と一緒に戒弟となっておられます。宗門の様々な祖師方の記録を見ていますと、太祖様もそうですが、お母様の影響が強い方を随分お見受けするように思うのですが、お父様となるとあまり見ないように感じておりました。しかし、先日、鑑真和上の伝記を見ていましたところ、お父様が就いていた授戒の師匠に自らも就いて沙弥になったという話もありましたので、そうした例もあることを感じた次第です。そして、授戒会の後になりますが、同年中に現在の名古屋市にある泰増寺の海雲大潮老師という方のもとで出家をされまして、沙弥になり、この時にお名前を素直に改められました。出家の時の御因縁として、海雲和尚やご両親は、翌日から寺に入れば食べられなくなるということで、魚・膾なども含めたお膳を用意したそうですが、石川禪師は、既に仏門に心があることから、持戒を理由にお膳を断ったそうです。

沙弥になってから五年後、安政元年の十二月八日の釈尊成道会になりますが、海雲和尚を受業師として得度受具され、宗門における比丘とられました。その後は首座、伝法、首先住職と進みます。江戸時代には二十年間の修行を経ていないと首座以上には進めないと論じられるところですが、石川禪師はわずか二十二歳で師のお寺を継ぐ形で入られています。この辺は、幕府の法度の運用を文字通り取ることは難しいと思う次第です。この後、当時まだ能登にあった總持寺で瑞世されました。

以上のような御修学を踏まえたうえで、石川禪師の授戒会御親化を見ていきたいと思いますが、石川禪師の語録には、明治三十八年に本山貫首に御就任されてから大正五年に御遷化されるまでの記録が残っておりません。各地では、授戒会・因脈会、また三帰戒授与など全部で、合計二百七十一回の御親化をされました。これは管見の限りではありませんが、それまでの歴代の總持寺の貫首狛下からしますと著しく多い数字となっているものかと思われれます。年に平均いたしますと十六回となり、授戒会には七日間の加行があることを考えますと、本当に日本中あちこちを移動され

ながら過ごしておられたのだろうと思いますし、お身体も強くないと難しかったのではないかと思います。石川禪師は御遷化されるわずか一か月前まで授戒会の戒師をお勤めでいらっしやいました。

毎年の生活の様子ですが、夏冬二安居の結制の時期になりますと各地の授戒会に拝請され、それが、解制のころまで続きます。現在の宗制でも、結制を行う場合には、その中で七日間の布教を行わなくてはならないという決まりになっておりますが、具体的には授戒会を想定していると思います。江戸時代の後期から末期くらいにかけて現在の滋賀県で行われた、ある授戒に関する説教録などを見ますと、本来九十日間行う結制安居においては、一般の方の立ち入りを許さない状況にあったようです。しかし、七日間の授戒会を行うときには、むしろ逆に一般の方に広く門戸を開放して、僧侶たちが朝から晩まで行う修行で、戒弟も一緒に行っていたり、機会にしていたようです。その意味からすると、各地の結制では、各地の寺の周りにいる人など様々な方が集まって助力する形で行われますので、その機会に宗門における一大法要である授戒会を実施したのです。

なお、ある一年の事例ということで、本山が現在の鶴見に移転し十一月五日に放光堂の落成と移転式典が行われた明治四十四年の状況ですが、その年は十八回もの御親化を行われております。具体的には、三月九日から大分県、同十七日から兵庫県、同二十五日から愛知県、四月から大阪府で、同じく四月の十・十七・二十四日から新潟県、五月二日から福井県、同じく五月十二・十九・二十六日から秋田県、六月四日から富山県、八月二十八日から新潟県、九月二十八日から宮城県、十月十日から長野県、十月十六日から群馬県、その間、本山で放光堂の御遷座と前貫首の西有穆山禪師の荼毘式を務められ、十一月二十一日から岩手県での御親化で、この年を終えられました。これだけの移動が可能だったのかどうかですが、半ば代行して部分的に法要を務められるような方も当時は一緒に旅をしていたようですので、そうした方を先に遣わすなど、様々な方便は取られたかと思いますが、当時の日本国内を見ても、明治二十年代から三十年代にかけて、全国各地の鉄道網が急速に整備されました。明治二十二年に東海

道線が通じたというのは非常に象徴的な出来事ではありますが、それに続くように、全国各地の、今でいうJ Rの中心となつていく線路が、石川禪師が御本山の貫首に就任される前くらいにかなり整備されてきました。よつて、本山独住二世であられた畔上禪師さまの時代、続く西有禪師さま、あるいは石川禪師さま、永平寺でいえば森田禪師さまの時代以降はそうした鉄道網の充実がありましたので、それで全国を移動されたと思われまふ。通信連絡についても、この時期は電報がかなり普及をしていた時代でもありますので、そうした新技術も縦横無尽に駆使しながら移動されていたと思われまふ。

全二百七十一回の授戒会御親化で、最多は新潟県の三十回、続いて愛知県と秋田県で二十八回、山形県が十七回ということ、かなりの数に及んでいます。具体的な内容につきましては、別紙資料（本紙30〜41頁）をご覧ください。その資料には、行われた年代順・日付順に、地域や寺院名、そして住職名などを挙げさせていただきましたので、お時間のある時にもご覧ください。一つ注目しますと、百七十六番には大正四年に石川禪師が鶴見の總持寺で晋山された際の記念の授戒会が行われています。そして、翌年からは報恩戸羅波羅蜜会が行われ、現代まで続いています。

それでは、続けて近代の宗門授戒会についてお話しさせていただきますと思います。明治政府による神仏分離の影響から、明治期の宗門は内外に問題を抱えたままの船出となりましたが、授戒会等につきましても、時運の衰微などの影響を受けて様々に制限をかけざるを得なかつたようです。明治六年三月に両大本山は「戒会口宣」を発しました。十数条に及ぶものではありますけれども、その中でも特に強調したかつたのは、戒会に託して自利を営むことを禁止することです。明治期に入って、多くの宗門寺院も経済的な状況も激変したかと思うのですが、それに合わせて戒会に伴つてかなりの集金をされた場合があつたようで、それが禁止されました。また、授戒会をかなり多く行つたため、戒師が戒についての本質も分かつていない場合があつたようで、碩徳の人をもって選ぶように促しました。更には明

治八年にも、曹洞宗務局からの布達で、改めて戒師には品行方正なる人を選ばべきとし、明治十年にも「授戒修行規約」を追記することで、全国における授戒会の乱れを宗務局が改善・是正しようとした流れを見ることが可能です。

一方、明治九年から施行された「曹洞宗教会条例」では新規入会の曹洞教会会衆に対して、法脈授与を重視しており、教化の基準には授戒を据えていました。また、今回改めて石川禅師の年譜を拝見したところ、明治三十九年に、当時の永平寺の森田悟由禅師と共に宗制の改訂に尽力されたと書かれております。その時の『曹洞宗宗制』の一部である『曹洞宗宗法』の「第二十条・授戒会修行法」では、当時の授戒会を修行する際の手続きと、明治の最初から繰り返し発せられた授戒会関係の布達が総合される形で示されています。戒師は学徳があり、禅戒の義を理解し、作法に通じた者でなくてはならないとしました。また、「授戒会修行心得」は「授戒会修行規約」を再編したもので、授戒会を行う場合には真新しく人の歡心に訴える作法ではなく、古い伝統を踏まえた上での作法で修行すべきだと書かれているのです。なお、金山貫苗居士の『曹洞宗時事小言』では、戒師の中には化粧までしていた場合があったことを批判し、水野道秀師が『授戒会の心得』という小冊子を出すことで、あるべき姿としての授戒会を目指そうとしています。これは、授戒会が布教の中心に据えられたからこそ、宗務当局あるいは宗門の中で、心ある人が様々な形を模索していた時代だったと思います。その中で石川禅師には、『戒会指南記』という授戒会作法の提唱録が法孫の方々によって残されました。こちらの特徴を簡単に見てみたいと思います。宗門の授戒会については江戸時代、大乘寺の月舟宗胡禅師が授戒会を復興して以来、特に大乘寺の関係者の手によって各地で行われました。ただ一方で、古規復古運動を通して宗門のあるべき修行のあり方を目指し、面山瑞方禅師や瞎道本光禅師などが大乘寺系の差定に対して苦言を呈する場面も見られました。結果的には、大乘寺が構築した授戒会作法が江戸時代以降、現代に至るまで宗門では中心的であり続けたと思います。そこで石川禅師の『戒会指南記』の特徴ですが、『血盆経』の授与が二日目の朝に行われることです。『血盆経』ですが、三重県の常安寺の住職であった雲樞泰禅師が自坊の戒会で説戒した際の

『戒会落草談』で広く功德を説いたことで知られます。この『戒会落草談』は明治時代の終わり頃、高田道見師が『授戒説教』という題名で刊行し、後には『曹洞宗全書』『禅戒』巻にも収録されました。『血盆経』は、女性に対しての人権的な問題を含む内容となっており、いわゆる月経による出血を穢れたものとして見、それをどう克服していくかということが書かれているものです。しかし、それを授けることで懺悔を完全にするという意図がありました。他には、懺悔は対首懺悔であり、戒弟の四衆登壇もありました。一方で伝戒を行った様子はありません。月舟禪師が再興した禅戒会では、特に大僧比丘に対しての伝戒を、授戒会中に別して行っておりまして、大乘寺系の授戒会作法書にはこの伝戒式がそのまま導入されています。ただし、江戸時代末期には、衆生教化の観点から、伝戒の作法を除きました。愛知学院大学では『尸羅会内中口伝』という授戒会の口伝書を収蔵してありますが、戒会中の伝戒は略式であると批判し、別日に正しい形で行うべきだとされています。よって、石川禪師の時代には伝戒の必要はなくなっていたと思います。更には、亡戒授与や因縁脈授与も行われず。

授戒会作法に関して、先ほど面山禪師や瞎道禪師の批判があつたと申上げましたが、面山禪師の批判は特に『若州永福和尚説戒』に詳しく挙げられ、出家者に対して推奨すべき対首懺悔を四衆全体に行うのは本来の様子ではないとされています。また、伝戒作法である『仏祖正伝菩薩戒作法』を授戒会に転用することも面山禪師は厳しく批判しています。よって、『教授戒文』を説戒や教授道場にも使っておりません。そういう点からしますと、石川禪師の作法は当時広く行われていた大乘寺系の作法に基づいた、宗門一般の授戒会作法で修行されたと見ることが出来ます。先ほど、当時の『宗制』で授戒会を修行する際には、古伝に則って行うべきことが明文化されていたことを申し上げましたが、石川禪師もその規程を遵守されていたと思います。

それから、石川禪師の説戒の特徴を申し上げます。石川禪師の説戒は「仏戒略説」として、自著の『夜明簾』に収

録されております。その内容については、引用されている様々な説話の傾向から、まずは面山禪師の『若州永福和尚説戒』を踏まえたものであると思っておりますが、この説戒録は、先ほど名前を出した雲樞禪師の『戒会落草談』も、そのまま踏襲しています。江戸時代、宗門の学僧の中による四衆全般への説戒録は、刊行されたものが極めて少ない状況ですので、そういう意味では、雲樞禪師が面山禪師の説戒録を参照することは当然だと思えますし、明治の終わり頃に雲樞禪師の『戒会落草談』が刊行された影響もあると思えます。石川禪師は『沙石集』などを著わした無住道暁との関係を意識され、仏教説話の説法への導入は極めて熱心でした。つまり、それまでの先達が利用した説話を、ご自身も用いつつ、四衆へ分かりやすく授戒の功徳を示されたと思えます。そういう意味においては、江戸から明治に切り替わっていく状況で、宗門の碩徳の方々が行っていた説戒や授戒作法などを踏まえた上で、石川禪師も説戒などを行われたのです。当時の授戒会作法の現存数は少なく、授戒会の実施に困るため、その都度オリジナルの一本があちこちにあるという印象です。そういう面からしますと、かつて宗務庁が刊行した『授戒会の研究』でも指摘された通り、傾向を見ながら分類することも難しいのですが、伝戒の有無や『血盆経』授与の有無、懺悔や登壇の方法などで簡単な分類は可能です。

今回は、石川禪師の御修学から、戒師としての御親化、更には作法や説戒のあり方などを見てまいりました。しかし、お時間となりましたので、私の発表は以上とさせていただきます。最後に、石川禪師は三十二万人の戒弟に授脈されたと伝わっております。大変にありがたいことです。

石川素童禪師授戒会等御親化寺院・会について

※凡例

- 1、本表は『大圓玄致禪師語録』に収録されている「御住山地録」から、授戒会関連の記載を抽出したものである。
- 2、「付帯事項・備考」に何も記載が無い場合には、「授戒会御親化」である。
- 3、寺院住職名については、本記録の記載に随い、無記名の場合にはそのまま無記名とした。既出の場合、略された場合がある。
- 4、寺院の地名は、本記録の記載に従い、当時の地名のまま収録した。

通し番号	年度	西暦	啓建	満散	寺院会等	寺院・会等所在地	住職名	付帯事項・備考
10	明治39年	1906年	5月4日	5月10日	全久院	長野県松本市宮村町	鈴木良音	
9	明治39年	1906年	4月24日	4月30日	養寿院	埼玉県入間郡川越町	石井愚鑑	
8	明治39年	1906年	4月14日	4月20日	宝円寺	愛知県西春日井郡下十個村	加藤良宗	
7	明治39年	1906年	4月6日	4月12日	龍泰寺	岐阜県武儀郡下有知村	和田慈穩	
6	明治39年	1906年	3月25日	3月31日	龍拈寺	愛知県宝飯郡豊橋町	久我篤立	
5	明治39年	1906年	3月17日	3月24日	宝泉寺	愛知県春日井郡瀬戸町	大野圃山	
4	明治39年	1906年	3月10日	3月16日	善篤寺	名古屋市中区門前町	中村頼宗	
3	明治39年	1906年	3月1日	3月7日	安穩寺	茨城県結城町	横井見明	
2	明治38年	1905年	10月15日	10月20日	能持院	栃木県芳賀郡中川村	富山全鳳	
1	明治38年	1905年	10月5日	10月11日	永見寺	東京市浅草区栄久町		

石川素童禪師の授戒会

34	33	32	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11		
明治40年	明治40年	明治40年	明治40年	明治40年	明治40年	明治40年	明治39年	明治39年	明治39年	明治39年	明治39年	明治39年	明治39年	明治39年	明治39年	明治39年	明治39年	明治39年	明治39年	明治39年	明治39年	明治39年	明治39年		
1907年	1907年	1907年	1907年	1907年	1907年	1907年	1906年	1906年	1906年	1906年	1906年	1906年	1906年	1906年	1906年	1906年	1906年	1906年	1906年	1906年	1906年	1906年	1906年		
6月22日	6月15日	5月22日	5月2日	4月24日	4月17日	4月5日	3月25日	12月22日	11月24日	11月16日	11月11日	10月28日	10月9日	10月7日	10月1日	9月15日	9月14日	9月11日	7月12日	7月4日	6月28日	5月23日	5月14日		
6月28日	6月21日	5月28日	5月8日	4月30日	4月23日	4月11日	3月31日	12月29日	11月30日										7月18日	7月10日	7月4日	5月29日	5月20日		
蒼龍寺	清源寺	高林寺	円清寺	羅漢寺	松屋寺	東龍寺	大広寺	正衆寺	浄牧院				陸軍?	陸軍?	龍徳寺?	龍門寺?			最勝寺	顕聖寺	太岩寺	延命寺	青龍寺		
秋田県南秋田郡土崎港町	秋田県南秋田郡一日市村	町 東京市本郷区駒込蓬萊寺	福岡県朝倉郡志波村	大分県下毛郡上津村	大分県速見郡日出町	新潟県南蒲原郡田上村	大阪府豊能郡池田町	愛知県知多郡豊浜町	東京府北多摩郡久留米村	神奈川県横須賀市	愛知県豊橋市	福井県今立郡鱒江町	青森県弘前市	青森県弘前市	北海道小樽市新富町	山形県山形市皆川町	山形県米沢町		千葉県習志野町?	富山県上新川郡蜷川村	新潟県東頸城郡下保倉村	新潟県中頸城郡高田町	千葉県安房郡国府村	滋賀県大津市小川町	
佐藤珍随	志田義天	田中惟喬	石井禅海	中島得聞	藏山靈瑞	植木快応	武沢岱雲	木村大鼎	大村宜方											蜷川洞宗	武田範之	市村哲成	須田大嶽	稻寸篤恭	
										三帰戒御授与・御親教	三帰戒御授与・御親教	三帰戒御授与・御親教	三帰戒御授与・御親教	三帰戒御授与・御親教	三帰戒御授与・御親教	因縁血脈授与(法会道場)	速夜法要御親修・三帰戒御授与	興道会主催追弔法会御親修・三帰戒御授与				追弔大法会御親修・三帰戒御授与	新潟県第九宗務支局管内寺院連合授戒会(取締・保坂実参)	千葉県第七支局管内寺院連合授戒会(取締・佐野道珍)	

59	58	57	56	55	54	53	52	51	50	49	48	47	46	45	44	43	42	41	40	39	38	37	36	35
明治41年	明治41年	明治41年	明治41年	明治41年	明治41年	明治41年	明治41年	明治41年	明治41年	明治41年	明治41年	明治41年	明治41年	明治41年	明治41年	明治41年	明治41年	明治41年	明治41年	明治40年	明治40年	明治40年	明治40年	明治40年
1908年	1908年	1908年	1908年	1908年	1908年	1908年	1908年	1908年	1908年	1908年	1908年	1908年	1908年	1908年	1908年	1908年	1908年	1908年	1908年	1907年	1907年	1907年	1907年	1907年
9月22日	7月10日	7月4日	6月2日	5月27日	5月27日	5月21日	5月15日	5月9日	5月1日	4月27日	4月21日	4月12日	4月5日	3月28日	3月20日	3月11日	3月2日	2月23日	2月13日	12月17日	10月25日	9月28日	9月24日	9月18日
9月28日	7月11日	7月10日	6月8日	6月2日		5月27日	5月21日	5月15日	5月7日	4月28日	4月27日	4月18日	4月11日	4月3日	3月26日	3月18日	3月8日	2月29日	2月19日	12月23日	10月31日	10月4日		9月24日
蓮江寺	補陀寺	松庵寺	正平寺	龍泉寺	大川寺	満友寺	妙覚寺	陽沢院	安善寺	智徳寺	正法寺	天徳寺	常泉寺	聖光寺	岩滝寺	安全寺	高昌寺	般若寺	林祥寺	璉光院	全龍寺	宝鏡寺	名立寺	直指院
石川県鳳至郡輪島町	秋田県南秋田郡旭川村	秋田県山本郡鹿渡村	秋田県平鹿郡横手町	秋田県平鹿郡浅舞町	秋田県仙北郡大曲町	秋田県仙北郡小友村	秋田県秋田市寺町	秋田県河辺郡豊岩村	新潟県長岡市神田町	新潟県南蒲原郡見附町	新潟県中蒲原郡新津町	大阪府大阪市北区東寺町	富山県下新川郡魚津町	広島県広島市新川場町	島根県邇摩郡波積村	福岡県小倉市古船場町	愛媛県喜多郡五城村	静岡県榛原郡相良町	千葉県市原郡鶴舞町	栃木県下谷郡喜連川町	富山県下新川郡大久保村	山形県北村山郡下立村	新潟県西頸城郡名立町	新潟県西頸城郡糸井川町
	青山物外	渡辺禅岳	松井智門	山	佐々木養	大沢尹偉	菅器玉	真崎靈雲	川村観明	土田牧牛		齋藤貞三	藤井素雲	北田西来	田阪大円	山崎豊山	小田石門	浅野祖田	河合泰柱	齋藤秀香	菊地龜乘	中川琳道	伊藤道海	丸山繡光
	開祖月泉良印禪師特為諷経御親修・三帰戒御授与・御親教		伽藍再建落成入仏記念授戒会御親化	伽藍再建落成入仏記念授戒会御親化	三帰戒御授与	再建工事完成記念戸羅会御親化				本尊阿弥陀如来開扉供養会御親修・因縁血脈授与・御親教													因縁血脈授与・御垂示	

石川素童禪師の授戒会

85	84	83	82	81	80	79	78	77	76	75	74	73	72	71	70	69	68	67	66	65	64	63	62	61	60
明治43年	明治43年	明治43年	明治43年	明治43年	明治42年	明治42年	明治42年	明治42年	明治42年	明治42年	明治42年	明治42年	明治42年	明治42年	明治42年	明治42年	明治42年	明治42年	明治42年	明治42年	明治42年	明治41年	明治41年	明治41年	明治41年
1910年	1910年	1910年	1910年	1910年	1909年	1909年	1909年	1909年	1909年	1909年	1909年	1909年	1909年	1909年	1909年	1909年	1909年	1909年	1909年	1909年	1909年	1908年	1908年	1908年	1908年
5月2日	4月24日	4月17日	4月9日	4月1日	12月1日	11月22日	11月14日	11月8日	11月1日	10月12日	7月1日	5月17日	5月13日	5月1日	4月21日	4月13日	4月7日	3月29日	3月23日	3月15日	3月6日	2月23日	12月8日	11月22日	10月5日
5月8日	4月30日	4月23日	4月15日	4月7日	12月8日	11月28日	11月20日	11月11日	11月7日	10月18日	7月7日	5月23日	5月19日	5月7日	4月27日	4月19日	4月13日	4月5日	3月26日	3月21日	3月13日	3月1日	12月15日	11月28日	10月11日
興源院	青龍寺	瑞石寺	龍光寺	大淵寺	陽山寺	泰増寺	龍川寺	林松院	長源寺	道英寺	洞雲寺	広禅寺	顕孝庵	正法寺	法明院	功山寺	芳証寺	西方寺	皓台寺	海潮寺	乾徳寺	智恩寺	永興寺	龍門寺	喜福寺
山形県最上郡大蔵村	滋賀県大津市小川町	福岡県鞍手郡若宮村	新潟県西頸城郡能生谷村	富山県婦負郡細入村	宮城県牡鹿郡鮎川村	名古屋市中区新栄町	宮城県加美郡小野田村	宮城県仙台市新寺小路	静岡県田方郡韭山村	町 東京市小石川区小日向台	新潟県刈羽郡大洲村	三重県阿山郡上野町	大阪市東区中寺町	山形県東田川郡大山町	山口県吉敷郡宮野村	山口県豊浦郡長府町	熊本県天草郡御領村	長崎県佐世保市八幡町	長崎県長崎市寺町	山口県阿武郡秋町	名古屋市中区東田町	千葉県安房郡豊房村	栃木県那須郡佐久山町	石川県鹿島郡七尾町	東京市本郷区本郷
加藤瑞仙	稲寸篤恭	鷺尾国瑞	桜沢全保	大法活眼	三河啓明	大友泰全	三宅寛義	島崎子龍	真一泰雄	中村足慧	其道素白	有沢玄齡	江口法覚	井本蒼龍	温勢百城	村上宝山	高木龍法	霖玉仙	三砂惟一	平野大仙	片桐観禅		北野玲巖	岡田戒順	
																									本堂大修繕庫院改築観音堂落成記念 授戒会御親化

110	明治44年	1911年	10月16日	10月22日	福増寺	群馬県勢多郡敷島村	横山義寛	
109	明治44年	1911年	10月10日	10月16日	永昌寺	長野県埴科郡埴生村	丸山貫光	
108	明治44年	1911年	9月22日	9月28日	梅溪寺	宮城県牡鹿郡石巻町	藤田賢龍	
107	明治44年	1911年	8月28日	9月3日	雲泉寺	新潟県岩船郡関谷村	渡辺舟山	
106	明治44年	1911年	8月27日		西法寺	新潟県岩船郡保内村	川村恵光	大般若会御親修・三帰戒授与・御親教
105	明治44年	1911年	6月4日	6月10日	松林寺	富山県下新川郡泊町	在田隴山	
104	明治44年	1911年	5月26日	6月1日	長慶寺	秋田県山本郡能代港町	深川仏彦	
103	明治44年	1911年	5月19日	5月25日	大慈寺	秋田県平鹿郡大森町	松井啓門	
102	明治44年	1911年	5月12日	5月18日	雲巖寺	秋田県仙北郡白岩村	高橋舟嶽	
101	明治44年	1911年	5月2日	5月8日	発心寺	福井県速数郡今富村	松本大英	
100	明治44年	1911年	4月24日	4月30日	林泉庵	新潟県南魚沼郡伊米ヶ崎村	真鍋魯宥	
99	明治44年	1911年	4月17日	4月23日	定福寺	新潟県南蒲原郡田上村	栗賀環光	
98	明治44年	1911年	4月10日	4月16日	種月寺	新潟県西蒲原郡岩室村	大野序然	
97	明治44年	1911年	4月1日	4月7日	太平寺	大阪府南区六万体的	北山絶三	
96	明治44年	1911年	3月25日	3月31日	雲興寺	愛知県東春日井郡赤津村	中島亮天	
95	明治44年	1911年	3月17日	3月23日	安養寺	兵庫県印南郡別村	林 泰宗	
94	明治44年	1911年	3月9日	3月15日	長松寺	大分県速見郡別府町	古城石雲	
93	明治43年	1910年	10月21日	10月27日	増林寺	東京市深川区万年町	須田竹聞	
92	明治43年	1910年	10月11日	10月17日	興国寺	福島県伊達郡梁川町	嶽尾采尚	
91	明治43年	1910年	10月1日	10月7日	大光院	名古屋市中区門前町	田中懐光	
90	明治43年	1910年	9月20日	9月26日	会林寺	山形県最上郡新庄町	梅津桂堂	
89	明治43年	1910年	6月20日	6月26日	恩徳寺	秋田県鹿角郡花輪町	岩館祖扇	
88	明治43年	1910年	6月3日	6月9日	海惠寺	富山県中新川郡早月加積村	真田政光	
87	明治43年	1910年	5月18日	5月24日	総泉寺	韓国慶尚南道釜山	長田観禅	
86	明治43年	1910年	5月10日	5月16日	宝泉寺	兵庫県川辺郡小浜村		

石川素童禪師の授戒会

136	大正元年	1912年	12月1日	12月7日	保雲寺	山梨県東山梨郡岡部村	松本悦堂	
135	大正元年	1912年	11月23日	11月29日	西光寺	富山県上新川郡月岡村	蜷川瑞光	
134	大正元年	1912年	11月16日	11月23日	盛隆寺	長野県下高井郡日野村	西沢顕鳳	
133	大正元年	1912年	11月8日	11月14日	妙見寺	栃木県上都賀郡粟野町	武田良英	
132	大正元年	1912年	11月1日	11月7日	西有寺	神奈川県横浜市小町	玉田仁齡	
131	大正元年	1912年	10月17日	10月23日	国泰寺	広島県広島市小町	西沢仏海	
130	大正元年	1912年	10月10日	10月16日	洞光寺	兵庫県多紀郡雲部村	山田大啓	
129	大正元年	1912年	10月2日	10月8日	総泉寺	東京市浅草区橋場町	武藤弥天	
128	大正元年	1912年	9月23日	10月1日	東正寺	山形県東置賜郡赤湯町	規矩智玉	
127	大正元年	1912年	9月17日	9月23日	福生寺	新潟県古志郡東山村	篠田賢瑞	
126	明治45年	1912年	6月23日	6月29日	蔵堅寺	秋田県由利郡本荘町	伊藤天海	祖堂新築遷祖記念授戒会御親化
125	明治45年	1912年	6月16日	6月22日	補陀寺	秋田県南秋田郡旭川村	青山物外	
124	明治45年	1912年	5月24日	5月30日	瑞徳寺	岩手県江刺郡玉里村	岩間祖苗	
123	明治45年	1912年	5月17日	5月23日	最乗寺	神奈川県足柄上郡南足柄村	織田雪巖	道了大薩埵五百年祭開扉(5月1日)
122	明治45年	1912年	5月7日	5月13日	永賞寺	福井県敦賀郡敦賀町	和田俊英	28日)記念授戒会御親化
121	明治45年	1912年	4月29日	5月5日	極楽寺	鳥取県東伯郡西郷村	早川儀僊	
120	明治45年	1912年	4月21日	4月27日	景福寺	兵庫県姫路市吉田町	青山梵立	
119	明治45年	1912年	4月14日	4月20日	玄答院	兵庫県姫路市仁保村	貞永黙法	
118	明治45年	1912年	4月9日	4月15日	瑞松庵	山口県厚狭郡船木村	本永昇山	
117	明治45年	1912年	4月1日	4月7日	天寧寺	名古屋市中区門前町	伊藤哲杖	
116	明治45年	1912年	3月24日	3月30日	瑞光寺	三重県鈴鹿郡関町	黒田鉄巖	
115	明治45年	1912年	3月17日	3月23日	正眼寺	愛知県東春日井郡小牧村	近藤疎賢	
114	明治45年	1912年	3月10日	3月16日	西明寺	愛知県宝飯郡八幡村	石田寅方	
113	明治45年	1912年	3月3日	3月9日	瑞光寺	愛知県知多郡旭村	鈴木卓宗	
112	明治44年	1911年	11月21日	11月27日	祇陀寺	岩手県盛岡市東中野町	安部靈純	
111	明治44年	1911年	11月14日	11月20日	東光寺	岩手県和賀郡笹間村	轟木東察	

137	大正2年	1913年	3月7日	3月13日	永国寺	熊本県球磨郡人吉町	紫安玄齡	
138	大正2年	1913年	3月29日	4月4日	健命寺	長野県下高井郡豊郷村	大谷靈源	
139	大正2年	1913年	4月9日	4月15日	常在院	福井県三方郡十村	泉 篤禪	寺格昇等僧堂開單記念授戒会御親化
140	大正2年	1913年	4月18日	4月24日	玉林寺	東京市下谷区谷中坂町	山口玉泉	
141	大正2年	1913年	4月28日	5月4日	豊音寺	大分県直人郡竹田町	野上道達	
142	大正2年	1913年	5月14日	5月20日	光明寺	秋田県秋田市寺町	石田全寿	
143	大正2年	1913年	5月20日	5月21日	清源寺	秋田県南秋田郡一日市村	志田義天	明治天皇奉悼会御親修・因脈授与・ 御親教
144	大正2年	1913年	6月20日	6月27日	海隣寺	新潟県高田市裏寺町	金子良範	
145	大正2年	1913年	6月27日	7月3日	雲門寺	新潟県中頸城郡吉川村	中村龍山	
146	大正2年	1913年	7月4日	7月11日	正平寺	秋田県平鹿郡横手町	松井智明	授戒講等先亡供養会御親修
147	大正2年	1913年	7月5日	7月11日	洞泉寺	秋田県南秋田郡船川町	石川良賢	
148	大正2年	1913年	8月28日	9月4日	龍華院	群馬県利根郡池田村	清水大龍	
149	大正2年	1913年	9月7日	9月13日	巨海院	山形県西村山郡本郷村	伊藤法運	
150	大正3年	1914年	11月24日	11月30日	瑞源寺	茨城県筑波郡久賀村	山崎泰禪	
151	大正3年	1914年	2月19日	2月25日	龍門寺	愛知県渥美郡田原町	太田無文	
152	大正3年	1914年	2月27日	3月5日	永祥寺	岡山県後月郡西原村	市川洞白	
153	大正3年	1914年	3月8日	3月14日	喜雲寺	宮崎県東臼杵郡岡富村	長田観禪	
154	大正3年	1914年	3月17日	3月23日	永明寺	兵庫県天田郡下川口村	河口俊韜	
155	大正3年	1914年	4月2日	4月8日	円通寺	岐阜県恵那郡長島町	四津谷洞 龍	
156	大正3年	1914年	4月11日	4月17日	瑞龍寺	富山県射水郡下関村		
157	大正3年	1914年	4月18日	4月24日	正法寺	新潟県中蒲原郡新津町	齋藤貞三	
158	大正3年	1914年	4月25日	5月1日	天周院	長野県上水内郡吉田村	黒柳祖雄	
159	大正3年	1914年	5月3日	5月9日	極楽寺	三重県南牟婁郡木本町	服部陽雲	
160	大正3年	1914年	5月11日	5月17日	慶養寺	東京市浅草区今戸町	浅野良応	
161	大正3年	1914年	5月18日	5月24日	宋吉寺	名古屋市中区南小川町	野田道環	
162	大正3年	1914年	6月1日	6月8日	青龍寺	滋賀県大津市小川町		

石川素童禪師の授戒会

186	185	184	183	182	181	180	179	178	177	176	175	174	173	172	171	170	169	168	167	166	165	164	163	
大正6年	大正6年	大正5年	大正5年	大正5年	大正5年	大正5年	大正5年	大正5年	大正4年	大正4年	大正4年	大正4年	大正4年	大正4年	大正4年	大正4年	大正4年	大正4年	大正4年	大正4年	大正4年	大正3年	大正3年	大正3年
1917年	1917年	1916年	1916年	1916年	1916年	1916年	1916年	1916年	1915年	1915年	1915年	1915年	1915年	1915年	1915年	1915年	1915年	1915年	1915年	1915年	1915年	1914年	1914年	1914年
3月31日	3月17日	11月15日	11月7日	8月21日	4月6日	3月29日	3月11日	3月7日	11月18日	11月7日	9月19日	6月2日	5月14日	5月8日	4月23日	4月16日	4月9日	4月3日	3月15日	3月8日	3月1日	11月16日	10月2日	10月2日
4月5日	3月23日	11月21日	11月13日	8月27日	4月12日	3月4日	3月17日		11月24日	11月13日	9月25日	6月8日	5月14日	4月30日	4月22日	4月15日	4月9日	4月9日	3月21日	3月14日	3月7日	11月23日	10月8日	10月8日
龍巢院	最勝寺	玄峰院	總持寺	示現寺	慶田寺	観音寺	芳証寺	顕光院	明德寺	總持寺	長谷寺	長松院	常安寺	江山寺	定光寺	東福院	太總寺	瑞天寺	玉雲寺	日暹寺	東漸寺	北辰寺	法持寺	法持寺
静岡県小笠郡笠原村	富山県上新川郡蜷川村	長野県更級郡共和村	神奈川県橋本郡熱塩村	福島県耶麻郡熱塩村	奈良県磯城郡織田村	新潟県北蒲原郡安田村	熊本県天草郡御領村	静岡県静岡市研屋町	長野県埴科郡豊栄村	神奈川県橋本郡生見尾村	山形県西村山郡谷地町	滋賀県犬上郡彦根町	岩手県下閉伊郡宮古町	岩手県下閉伊郡磯鶏村	新潟県南蒲原郡加茂町	新潟県刈羽郡中通村	新潟県北蒲原郡中条町	新潟県中頸城郡湯町村	京都府船井郡須知町	愛知県愛知郡東山村	愛知県宝飯郡井奈村	岐阜県上郡嵩田村	名古屋南区熱田白鳥町	名古屋南区熱田白鳥町
周	久保田亮	北野玲巖	細井素随	石川素童	飛 円順	長嶺観溪	青山物外	村上宝仙	加藤道順	太田良仙	石川素童	伊藤興宗	近藤鉦天	上館全靈	乙川文龍	佐藤孝仙	齋藤賢宗	祥雲仙心	石崎古嶽	日置黙仙	中田台雲	岡本碩翁	明達慧等	明達慧等
			報恩戸羅波羅蜜会						因脈授与御親修		晋山祝賀記念戸羅波羅蜜会御親化 (教授師・日置黙仙、引請師・長谷川天 穎、助導師・黒田鉄巖、近藤疎賢)		法会御親修・因脈授与・御親教					御親化	鳥々観世音千二百年記念開扉授戒会					

187	大正6年	1917年	4月7日	4月13日	関貞寺	名古屋市外大曾根町	西村俊学	因脈授与・御親教
188	大正6年	1917年	4月15日	4月22日	法明院	山口県吉敷郡宮野村	浅野祖田	因脈授与・御親教
189	大正6年	1917年	4月16日	4月29日	海潮寺	山口県阿武郡秋町	三河啓明	
190	大正6年	1917年	4月23日	4月29日	桂林寺	京都府加佐郡舞鶴町	高橋一乘	因脈授与並御親教
191	大正6年	1917年	4月29日	5月3日	龍穩寺	京都府船井郡摩気村	棟方唯一	
192	大正6年	1917年	4月29日	5月3日	正伝寺	秋田県平鹿郡栄村		
193	大正6年	1917年	5月10日	5月16日	大川寺	秋田県仙北郡大曲町		
194	大正6年	1917年	5月17日	5月23日	清源寺	秋田県南秋田郡一日市村		
195	大正6年	1917年	6月18日	6月19日	安楽寺	北海道室蘭市常盤町		因脈授与・御親教
196	大正6年	1917年	6月21日	6月27日	光照寺	北海道浦河郡浦河町		
197	大正6年	1917年	6月29日	6月30日	禅洞寺	北海道空知郡岩見沢町	渡辺鶴仙	施餓鬼会御親修・因脈授与・御親教
198	大正6年	1917年	7月2日		大光寺?	北海道雨竜郡秩父別村	宇都宮高学	大施餓鬼会御親修・因脈授与・御親教
199	大正6年	1917年	7月5日	7月11日	東照寺	北海道上川郡名寄町	大沼東推	
200	大正6年	1917年	7月11日	7月12日	大宝寺	北海道空知郡富良野村	池田慧仙	施餓鬼会御親修並因脈授与・御親教
201	大正6年	1917年	7月15日	7月17日	聖徳寺	北海道中川郡洞寒村		祝聖諷経・因脈授与御親教
202	大正6年	1917年	7月16日	7月17日	法龍寺	北海道網走郡網走町	佐藤栄蔵	因脈授与並御親教
203	大正6年	1917年	7月21日	7月23日	高台寺	北海道常呂郡野村牛町	佐伯種貞	兩祖諷経・因脈授与
204	大正6年	1917年	7月23日		置戸説教所	北海道常呂郡置戸町		無縁施餓鬼会・因脈授与御親修
205	大正6年	1917年	7月25日		中央寺	北海道札幌市南六条西三丁目	渡辺禅洞	兩祖諷経・因脈授与御親修
206	大正6年	1917年	7月29日	8月4日	永全寺	北海道余市郡余市町		
207	大正6年	1917年	8月4日	8月5日	大林寺	北海道虻田郡狩太村		無縁施餓鬼会御親修・因脈授与並御親教
208	大正6年	1917年	9月20日	9月26日	東林寺	山形県西村山郡谷地町	渡辺智洞	
209	大正6年	1917年	9月27日	10月3日	大林寺	宮城県仙台市新寺小路	田中宗岳	
210	大正6年	1917年	10月7日	10月13日	龍勝寺	長野県上伊那郡河南村	守山太淳	

石川素童禪師の授戒会

2 3 6	2 3 5	2 3 4	2 3 3	2 3 2	2 3 1	2 3 0	2 2 9	2 2 8	2 2 7	2 2 6	2 2 5	2 2 4	2 2 3	2 2 2	2 2 1	2 2 0	2 1 9	2 1 8	2 1 7	2 1 6	2 1 5	2 1 4	2 1 3	2 1 2	2 1 1
大正8年	大正8年	大正7年	大正7年	大正7年	大正7年	大正7年	大正7年	大正7年	大正7年	大正7年	大正7年	大正7年	大正7年	大正7年	大正7年	大正7年	大正7年	大正7年	大正7年	大正7年	大正7年	大正7年	大正6年	大正6年	大正6年
1919年	1919年	1918年	1918年	1918年	1918年	1918年	1918年	1918年	1918年	1918年	1918年	1918年	1918年	1918年	1918年	1918年	1918年	1918年	1918年	1918年	1918年	1918年	1917年	1917年	1917年
3月8日	2月28日	11月24日	11月16日	10月30日	10月21日	10月11日	6月27日	6月20日	6月16日	6月9日	6月1日	5月18日	5月12日	5月4日	4月27日	4月25日	4月18日	4月17日	4月5日	4月2日	3月26日	3月19日	3月4日	10月28日	10月15日
3月14日	3月6日	11月30日	11月22日	11月5日	10月27日	10月17日	7月3日	6月26日	6月17日	6月16日	6月7日	5月24日	5月18日	5月10日	5月3日		4月24日		4月11日	4月8日	4月1日	3月29日	3月10日		10月21日
福嚴寺	宝樹寺	安国寺	盛巖寺	良信寺	總持寺	総泉寺	延曆寺	全龍寺	剛安寺	本田寺	周泉寺	善寶寺	養源寺	東嶺寺	林昌寺	長福寺	本覚寺	海蔵寺	大光寺	宗仙寺	月照寺	宗円寺	林泉寺	大泉寺	瑞泉寺
愛知県東春日井郡篠岡村	兵庫県神崎郡川辺村	山形県東村山郡大寺町	岐阜県恵那郡岩村町	群馬県多野郡藤岡町	神奈川県橘樹郡生見尾村	鳥取県西伯郡米子町	富山県水見郡神代村	富山県下新川郡下立村	新潟県佐渡郡吉井村	新潟県佐渡郡二宮村	愛知県西春日井郡金城村	山形県西田川郡東郷村	山形県北村山郡東根町	石川県鹿島郡田鶴浜村	岐阜県古城郡古川町	岐阜県武儀郡金山町	岐阜県岐阜市泉町	愛知県知多郡亀崎町	滋賀県野洲郡守山町	京都市五条通堺町	兵庫県明石郡明石町	愛知県愛知郡御器所村	愛知県西春日井郡金城村	東京府南多摩郡忠生村	愛知県愛知郡鳴海町
永井秀天	上野泰庵	三好克仙	後藤琢舜	平渡明修	石川素童	長谷川天	泉典衷	石田義道	本間真準	野田仏元	南間月乘	見理哲円	庵達成	松下隻音	蓐不染	不破賢龍	石川文龍	坂野貞祐	加藤貫瑞	浅井亮才	西垣活通	真宰覚定	浅井密成		
				秋季例祭御忌報恩尸羅会御親化					法会御親修・因脈授与並御親教						戦死者追弔法会御親修・因脈授与並御親教		法会御親修・因脈授与並御親教						法会御親修・因脈授与並御親教		

261	260	259	258	257	256	255	254	253	252	251	250	249	248	247	246	245	244	243	242	241	240	239	238	237	
大正9年	大正9年	大正9年	大正9年	大正8年	大正8年	大正8年	大正8年	大正8年	大正8年	大正8年	大正8年	大正8年	大正8年	大正8年	大正8年	大正8年	大正8年	大正8年	大正8年	大正8年	大正8年	大正8年	大正8年	大正8年	
1920年	1920年	1920年	1920年	1919年	1919年	1919年	1919年	1919年	1919年	1919年	1919年	1919年	1919年	1919年	1919年	1919年	1919年	1919年	1919年	1919年	1919年	1919年	1919年	1919年	
5月17日	5月10日	5月1日	4月22日	12月21日	11月5日	10月18日	10月10日	10月1日	9月24日	9月15日	9月8日	8月29日	7月8日	6月17日	6月11日	6月1日	5月19日	5月11日	5月3日	4月26日	4月18日	4月1日	3月24日	3月15日	
5月23日	5月16日	5月7日	4月28日	12月27日	11月11日	10月24日	10月16日	10月7日	9月30日	9月21日	9月14日	9月4日	7月14日	6月23日	6月17日	6月7日	5月25日	5月17日	5月9日	5月2日	4月24日	4月7日	3月30日	3月22日	
龍昌寺	倫勝寺	円通寺	総泉寺	極楽寺	海潮寺	永昌寺	陽興寺	長照寺	苔翁寺	光明寺	桃源院	東山寺	光西寺	興昌寺	蒼龍寺	祥雲寺	松月寺	高顕寺	大広寺	松屋寺	顯孝庵	西福寺	浄山寺	瑞林寺	
山形県北村山郡尾花沢町	秋田県山本郡榑村	兵庫県神崎郡豊富村	東京市浅草区橋場町	愛知県知多郡東浦村	栃木県芳賀郡真岡町	島根県能義郡母里村	佐賀県杵島郡須古村	長野県東筑摩郡笹賀村	長野県上水内郡三水村	岩手県江刺郡岩谷堂村	山形県東置賜郡上郷村	新潟県南蒲原郡大面村	富山県水見郡女良村	秋田県由利郡下川大内村	秋田県南秋田郡土崎港町	池袋	東京府北豊島郡巢鴨町字	福井県三方郡耳村	名古屋市中区下日置町	大阪府豊能郡池田町	大分県速見郡日出町	大阪市東区西高津中寺町	新潟県北蒲原郡水原町	埼玉県南埼玉郡荻島村	福井県三方郡北西郷村
弁	富士盛良	甲山玄道	渡辺洞水	高木鴻騰	根本正邦	黒川知全	高岸為範	雄	富士見恵	原山道春	佐藤元恵	英直指	出崎普覚	大阪雄山	佐藤実英	沢田篤友	桑原道琳	山田奕鳳	鈴木雄峰	蔵山嶺端	有沢透関	原大仙	石川徳峰	鴻洲	

石川素童禪師の授戒会

	271	270	269	268	267	266	265	264	263	262
	大正9年	大正9年	大正9年	大正9年	大正9年	大正9年	大正9年	大正9年	大正9年	大正9年
	1920年	1920年	1920年	1920年	1920年	1920年	1920年	1920年	1920年	1920年
	11月16日	10月10日	10月2日	9月24日	9月7日	9月3日	7月17日	7月10日	7月1日	6月22日
		10月16日	10月8日	9月30日		9月9日	7月23日	7月16日	7月7日	6月28日
		長松院	崇福寺	福生寺		岩松院	寿仙寺	妙覚寺	龍泉寺	高德寺
		福島県岩瀬郡須賀川町	東京市浅草区松清町	新潟県古志郡東山村	山形県西村山郡谷地町	山形県西村山郡北谷村	秋田県北秋田郡扇田町	秋田県秋田市寺町	新潟県中頸城郡直江津町	新潟県北蒲原郡笹岡村
		三村洗耳	鱗原泰全	篠田賢瑞		斉藤靈智			中川徳芳	荒木道機
石川素童禪師御遷化				御授与	細谷義一氏特請法会御親修・三帰戒					釜田黙雄